

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 おきな の 里)

事業所番号	0671800167		
法人名	社会福祉法人尾花沢福祉会		
事業所名	ハイマート福原グループホーム		
所在地	山形県尾花沢市大字野黒沢554-35		
自己評価作成日	平成 21年 11月 20日	開設年月日	平成 15年 3月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハイマート福原グループホームは平成15年に開設し、7年目を迎えている。尾花沢市の北方に位置し、四方が畑や山河に囲まれており、のんびりした雰囲気の中で楽しく暮らすことができる。施設はバリアフリー化された平屋造りであり、そのホールは広く、体操・踊り・演芸・リハビリテーションなどの利用に適した空間になっている。その入居者とともに生活する職員は、介護職員8人(1ユニット)と管理者(兼務)であり、手厚い支援を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査日の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 12月 22日	評価結果決定日	平成 22年 1月 12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の北方に位置し、広大な自然に囲まれた閑静で落ち着いた環境に当ホームは立地されています。利用者の尊厳を大切に耳を傾ける姿勢と笑顔を忘れずに、行事や運営推進会議を通して、地域住民との交流や連携を図り、利用者が生活能力を維持し、その人らしい幸福な人生が送れるよう支援されています。又、敷地内に同法人の老人保健施設が隣接され、避難訓練や退居後の関わり等相互間で協力体制が築かれており、利用者が安心して過ごせる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の中に地域との連携などをうたい、管理者と職員はその理念を踏まえ実践にあたっている。	利用者との信頼関係と地域との連携を主眼としたホーム独自の理念を掲げている。理念は事業所内に掲示し、職員は常に理念に立ち返りながら日々支援されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として交流できるよう努めているが、日常的にまでは言えない。主に行事などを連携しながら行っている。	日常的には買い物等で挨拶を交わしたり、地域の方をホームの夏祭りに招待するなど、地域との付き合いを大切にしている。例年小学校の運動会に出向いたり、高校生のボランティアを受け入れたり積極的に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区公民館の要請などにより、年に一回程度管理者が地域の方々に対して認知症の介助方法などを伝えることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見などを踏まえ、毎月全職員でユニット会議を行い、サービス状況について検討をしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、事業所の状況や外部評価の結果を報告したり、参加者からの意見を受ける等、双方向的な会議となっている。会議の他に、他のグループホームへの視察やホームの夏祭りと同日に行ない現状を見ていただきながら、利用者サービスの向上や運営面の改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市及び協力病院に対して、毎月実績を報告しており、意見などをもらこともある。	市の担当者とは、生活保護受給の利用者や介護報酬等の実績報告で関わりを持ち、困難ケースや状況報告を兼ねた身近な相談は、地域包括支援センターと密に情報交換を行ない、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	禁止事項の中でも、特に身体拘束には、全職員に内部研修などで十分な理解を求めてめている。玄関の鍵も同様に禁止事項として理解している。	内部研修で全職員に対して、身体拘束をしないケアに関しての教育を行なっている。日中は玄関の鍵は常に開放しており、外出しそうな利用者がいれば、会話や職員と一緒に出かける等の取り組みが見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修により高齢者虐待防止については理解を深めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のサービス事業者連絡会議の研修参加及び内部研修などにより権利擁護についての理解を深め、支援できるようにしている。現在はいずれも家族が健在であり制度の利用者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約をかわしているが、管理者などが十分に説明し、理解をされてから署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者と同様に、家族が来居時は常に声をかけ、要望を言いやすいようにしているが、さらに意見箱を準備している。	玄関に意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議の場等で、意見・要望を表せる機会を積極的に設けている。話し易い雰囲気作りに努め、出された意見等についてはユニット会議で検討し運営に反映している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月運営者と職員の会議を実施しており、職員の意見を反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の職場環境・条件整備については、毎年検討を加えて改善を検討している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年数回、外部研修も年一回以上受講できるようにして、管理者職員の資質向上に努めている。	施設長が自ら講師を務める計画的な内部研修や、県グループホーム連絡協議会の研修には交替で参加し、育成に力を入れている。研修発表会やユニット会議において伝達し、全職員の共有が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	山形県GH協会主催の交換実習に参加しており、そこで学んだことも活用してサービス向上に努めている。	県グループホーム連絡協議会が主催する交換研修や最上地区部会で情報交換を行っており、他事業所の援助技術や取り組みのレベル確認、又、地域性の違いから得た学びをサービスの質の向上に活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅などに行き面接を実施しており、その際本人や家族の意向を確認して、サービスに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や電話連絡のほか、入居当日も本人・家族の要望を聴けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の状況を多面的に評価し、グループホーム以外のサービスをすすめることもある。要医療などがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は意図的に暮らしを入居者とともにする者として関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との絆を重視した上で、職員と協働して支援にあたっている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の友人や仲間をいつでも受け入れるようにして、入居前の関係が途切れないようにしている。本人希望の場所へ職員と出かけることもよくある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が交流しやすいように、ソファやテーブルの位置などを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも連絡が取り合えるように、退居時に本人・家族に説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向把握に努め、菜園や物づくりなど、個別の趣向を活かした取り組みを行っている。	センター方式のアセスメントを活用し、生活の中での気づきから利用者一人ひとりの意向を把握している。意思疎通の困難な利用者には、家族からの情報の他に表情や行動、しぐさから思いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族の協力を得て、センター方式のアセスメントなどを行い、入居者の生活歴の把握などに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ入居者と生活をともにして、移動の状況などを観察しながら、個々の能力把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は毎月のユニット会議で検討し、モニタリングも必要な時に行っている。	利用者や家族の意見を反映し、職員の意見・情報・気づきを取り入れたケース検討がユニット会議の中で行なわれている。同法人内の理学療法士と連携を図りながら、3ヶ月に1回の定期的な評価や状態の変化毎の見直しにより専門的に行なわれ、利用者本位の介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録を活用し、定期的及び入居者の状況に合わせた必要時に介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源としてのボランティア団体などが、グループホーム行事に参加して、入居者とともに楽しむこともある。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医に、入居後も受診援助を行い、関係を断ち切らないようにしている。</p>	<p>従来からのかかりつけ医を軸として職員同行での受診援助が行なわれており、往診の形は基本的にはとらずに今日に至っている。家族等への報告やかかりつけ医との話し合い、情報のやりとりを通して良い関係を築いている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員は不在であるが、適切な医療サービスが受けられるよう管理者・介護員が定期受診の支援を行っている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は看護スタッフはいないが、介護職員が普段の病状や生活状況などを詳しく医療機関に伝えている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期は医療機関に指示を仰ぎ、家族とも相談しながら支援に当たるようにしている。</p>	<p>家族等や医療関係者等と連携を図りながら、状況変化に応じた繰り返しの話し合いを行ない、支援に繋げている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修の中で、応急手当なども学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加により、毎年、避難訓練・非常連絡訓練を合わせて数回行っており、地域の方々の参加する総合非難訓練も年に一回は行っている。	法人全体での総合訓練時に、夜間帯を想定した訓練を利用者と一緒に行ない、地域からの協力は、区長、地元消防団(2ヶ所)と近隣3軒の民家の方々に協力員として登録を頂いた。又、消防団からは、年1回、事業所内の構造や設置場所の確認等をしてもらい、取り組みができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー保護の重要性は全職員が了解しており、生活の支援にあたっている。	利用者自らのサインを見逃さず、その日の体調による対応の仕方を共有し、自己決定の場においては、二者択一で選んでもらい、迷わないように個別支援ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とともに生活する中で、本人が自己決定しやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」は個々に異なるが、朝の内に入居者の希望を聞き、ドライブ・買い物・ハイキングなどに出かけることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	残存能力を意識しながら、朝晩の着替えを支援しており、身だしなみも個々の能力に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・後片付けは、入居者ができるところは入居者にやっていただいて、楽しい雰囲気も重視している。	敷地内で取れた収穫物に恵まれ、日々の献立は職員が各ユニットにおいて交替で行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事チェック表により食事・水分摂取量を把握し、適量の摂取になるよう支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの支援は毎食後行っており、口腔内の清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を原則としており、体調不良時を除き、オムツは使用しないように努めている。	トイレでの排泄を可能にする為に一人ひとりのサインを全職員が把握し、さり気ない誘導、習慣やパターンに応じた個々の排泄支援ができています。現在は1名の利用者を除きオムツ使用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体力に応じてリハビリ体操などを行っているほか、繊維質の野菜が摂取できるよう支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ入居者個々の要望に応じた入浴支援を行っている。	利用者のその日の希望を確認し、体調を見ながら週に2回は入ってもらう事を心がけており、夜間入浴や毎日の入浴者もいる中で一人ひとりに合わせた入浴支援ができています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣を重視して、安眠できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のかかりつけ医の指示に基づき、適切な服薬ができるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴や趣味が活かせるように役割を持ってもらい、楽しみだけでなく自己実現も視野に入れて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望にそって、いつでも出かけられるようにしている。予定の変更には、特に規制を設けていない。	その人らしい暮らしを保つ為にいつでも外出は可能にしており、家族との外泊、外出もできている。冬期間においての利用者の希望の中には、「新庄雪祭り」や近隣への買い物等が随時行なわれており、個別の支援ができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、本人の能力に合わせてお金の所持をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にしたがい、可能な限り電話・手紙の支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境造りに力をいれている。共用空間は快適に過ごせるように、毎日、入居者とともに掃除を行っている。	ホールの天井には彩光を考慮した「すだれ」が利用されており、四季折々の利用者と職員の手作りの品が飾られ温かみを感じられる。毎日の利用者と共に行なう掃除も各自場所が決まっており、まさに生活感や季節感があふれる共用空間作りができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室を利用して独りになることが可能であり、気の合う利用者が個室を自由に訪れることも出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は、家族が来るたびに茶の間がわりに利用され、その都度、装飾などを見ていただいて、要望があればうかがうようになっている。	共同生活の中において個室の意味は大きく、自立支援を考慮した「できる事はして頂く」を共有し、その人らしく居心地の良い居室作りに工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全を最優先にしているが、わかりやすい環境を造るとともに、入居者の自立支援として、なるべく「できること」をして頂いている。		